



編集後記

悲観的に生きる人はいるもので。満足派は前年比3.8%上昇、73.9%になり、これまで最高だった1995年の72.7%を上回っています。特筆すべきは所得・収入での満足が不満を上回ったのは1996年以来。世界中を見回してもこのデータ、日本として誇るべきものでしょう。

■……好景気の時代、と言えはいつでも来てほしいものです。このほど有力通信社が主要企業108社を対象にしたアンケート結果のまとめによると、今年末頃の景気は全体の7割、76社が「拡大する」で、緩やかな拡大を含めて楽観的な見方が大勢を占めました。横ばいは26社、交代はたったの3社だけだそうで、設備投資も回復する見通し。経済連携協定(EPA)推進には50社も期待していますよ。

■……こちらは8月末公表された「国民生活に関する世論調査」。今あなたは生活に満足していますか？「満足」「まあ満足」と答えた人は合計で約70%に上り、1963年以來高くなったそうです。しかし、この先の生活が「悪くなっていく」と見ている人も20%強はいます。そりゃそうでしょう、どこの国も地方にも

い方はお構いなしのよう。ケネディ時代の問題になった人種差別、白人至上主義を唱える「KKK(クー・クラックス・クラン)」。最近は心と体の性別が異なる「トランジエンダー」を米軍が新規入隊させない方針を決めました。この大統領さん、人種差別主義者と批判され、この7月に有罪判決を宣告されたアリゾナ州ランプ氏による恩赦は初めてとか。

■……「自由時間が増えた場合になりたいこと」の質問に、トップの応えは旅行で47%、趣味・娯楽が34.8%、スポーツが18.7%。今後安倍政権が力を入れるべきことでは、医療・年金など社会保障の整備(65.1%)、景気対策(53.1%)、高齢社会対策(51.1%)、雇用・労働問題への対策(37.3%)の順が多かったよう。71年前の敗戦直後の混乱時代、まともに口に入れる者さえなく、いわば飢餓、貧困の時代でしたね。医者もなく、庶民は「絶食療法」に甘んじたものです。

■……国内の穏やかな景気拡大。さあ、日本国民は腰を落ち着けて、じっくり考えて行かねばなりません。米国の大金持ち大統領。別荘訪問に3億円、たかが遊びのゴルフに650万円。2代目の不動産屋が世界のトップの資産家とあれば、カネの使

■……そうは言っても、我が国でも人種差別、偏見の考え方に取いつかれた人がいます。もともと明治からの高齢者に多い。今の若い人に「部落差別」とか「エタ」と言ってもピンと来ないようです。それだけ日本人の人種意識も進んで来たのだろうと思います。結構なこと。かつては山口組や本多会に代表されたヤクザ世界には、それなりの元気な若者がいて、港湾労働、土建業に従事、

敗戦後の混沌社会を建て直したものです。「ケンカ」や「人ゴロシ」が激減してきました。巨大なコンテナ・ボックスが普及する前、彼らは港の大量貨物を数千人で肩に担いで運搬、日本の高度成長に大きく寄与したものです。

月刊公論
KORON

10月号 第50巻10号

平成29年10月1日発行 毎月20日発売
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人 大 中 吉 一 編集人 田崎義信 和泉貴志
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代)、FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣済堂
取次店 日本出版販売/大阪屋栗田

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。